



挑む⑤

「自己ベストを毎年更新している。右肩上がりです」と笑う。1500^ギと、得意の800^ギに出場する。800^ギは短距離に近いスピードで走りながらも他の選手との接触、転倒もあり「走る格闘技」といわれる。1500^ギは選手間の駆け引きが勝負に影響する。初のデフリンピックに「2・3番目につけて、いかに耐えるかが決勝進出につながると思う」と臨む。

生まれつきの感覚性難聴で、補聴器をつければ手話がなくても会話できる。小中学校は聴者と同じ学校に通い、中学ではバスケットボール部で「チームを強くしたいから」と主将を務めた。「体育館では他の部活も練習していて、音がうるさかった。先生や友人の声を聞き取りづらかった」という。

陸上との出会いは、岩手県立盛岡聴覚支援学校の高等部。「ほかに部活がなかったから、仕方なく陸上部に入った。1年の時はおもしろくなかった。2年ではう者の全国大会で800^ギ2位、1500^ギで優勝し、波に乗る。

陸上
中村大地 選手(19)

自己ベストで決勝へ



デフリンピック前の最終選考会で力走する中村選手＝埼玉県熊谷市の熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で（本人提供）

3年では両種目で優勝した。筑波技術大に入ったのは、ろう者への情報提供が保障されていること、他のろう者との関わりを広げたいと思ったから。練習は近くの筑波大と自主的に週5日。5月の選考会で今大会の代表入りを決

めてからは、北海道などで強化合宿に参加してきた。

持ち味はラストスパート。初の国際大会となった昨年7月の台湾での世界デフユース選手権では、終盤で順位を上



なかむら・だいぢ 2006年、盛岡市出身。筑波技術大産業技術学部産業情報学科2年。好きな食べ物は「ドーナツなど甘い物」、大学を自分で作る。趣味はアニメ鑑賞。「ONE PIECE」は原作を読んだ。バスケットボール、ボウリングで気分転換。「筋肉痛や疲労が抜ける感じがする」といへば市内のサウナに行きたい。

げ800^g、1500^gでい
ずれも銅メダルを獲得した。
両種目ともスピードとスタミ
ナの双方が求められ、「練習
は苦しい。でも、自己ベスト
を出した時の達成感是他の競
技にはないのでは」と語る。

現在の自己ベストは800^g
が1分59秒86、1500^g
が4分13秒76。いずれも今年
6月に出した。今大会ではそ
の更新を狙うとともに、「台湾
で競った海外の選手たちと再
会できるのが楽しみ」とい

う。特にライバル視するものが、世界デフユース選手権800びで優勝したチェコのタラック・ダリバール選手。「この選手には勝ちたい」

今大会の目標は「自己ベストを出して決勝進出」と力を込める。「多くの人にお世話になった分、1試合でも多く競技場で走って恩返しをした」といふ。

高校の時の陸上部顧問で現在
は岩手県立花巻清風支援学
校の白藤友一教諭には、今も

用語解説 デフ陸上 スタート時の合図が聞こえないため、3色のスタートランプで知らせる。赤=位置について、黄=用意、緑=スタート。ランブは短距離では顔の下に、中長距離は立てかける形で置かれる。会場は駒沢オリンピック公園陸上競技場。中村選手の1500㍓は予選が18日、決勝19日。800㍓は予選21、22日、決勝23日。

用語解説

競技スタイルを「走りながら充電できるタイプ」と例えた。「後半に力をためておける。ペース配分する中で力を温存するわけではなく、終盤にもうひと踏ん張りできる力をためられる。天性のものでしょう」。今大会では「自己ベストを更新できれば、決勝まで残れる」と期待する。

LINEで動画を送って練習やフォームについて助言を請い、地元に戻った時は練習を見てもらい指導を受ける。白藤教諭は「からっとした性格で、何事にも一生懸命取り組む頑張り屋と評価する。『陸上を始めて5年。がむしゃらにやる時期。それでも良いタイムを出す力を持っている』